側も詳細に綴られており、わが国鉄道史研究の基礎資料として今後の活用が期待される。

堤特任教授は、今年3月まで交通協力会の主任研究員として、わが国の鉄道の技術史を研究。茨城大では技術科教員の養成コースで機械分野を担当するほか、技術史教育の研究も行い、茨城の産業史・交通史も論じている。

堤特任教授は、「技術者たちの知恵と努力の積み重ねの上に、現在の技術がある。そうした人々の思いに寄り添い、歴史を具体的に知ること、それを未来に受け継いでいくということは、技術科の教員にとって欠かせない教養だといえる。日本が世界に誇る『新幹線』という一大事業の歴史を通して、技術の果たす役割の重要さ、技術史の深みや面白さを実感してもらえると嬉しい」と話している。

福井大、新病棟が「照明普及賞」を受賞

福井大学医学部附属病院A棟（新病棟）の照明設備が、6月9日に照明学会の「平成26年照明普及賞」を受賞した。

医療施設として、視環境、照明技法、照明効果など総合的な観点から優れているとして評価された。昨年の松岡キャンパスの講義棟に続き、2年連続の受賞となる。

附属病院A棟の照明設備は、全館にLED照明器具を採用し、エネ性や保守性を高め、これまでの高効率形蛍光灯と比較して、約43％の電力使用量の削減になる。

手術室やICUでは、手術・処置などに必要な明るさの確保、最新の医療機器に電磁的影響を与えることがないよう、国際規格に準じた照明器具や環境清浄度を満たすクリーンルーム対応の照明器具を採用した。

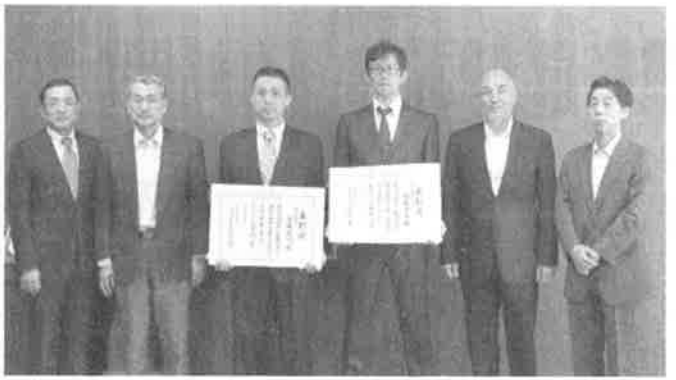
また病棟照明は、診療や処置に十分な明るさを確保しつつ、間接照明や暖色系のLEDを採用し、患者の快適性と医療の安全性が両立する空間環境を創出している。

福井大では、引き続き安全・安心で、快適な医療環境の充実と地球環境に配慮した病院経営に貢献する照明設計に取り組むこととしている。

表彰状を手に喜びの受賞職員

A棟西面（夜景写真）

文科大臣賞受賞者に特別褒賞を授与（名工大）

名古屋工業大学では、特別褒賞の授与式をこのほど執り行った。特別褒賞は、教育研究活動及び社会貢献で多大な功績があった教職員のうち、学長が特に認める者に授与される。

今回の受賞者は、「発話音声と脳血流解析による認知症早期スクリーニングの研究」により文部科学大臣表彰科学技術賞を受賞した加藤昇平教授、「粘弾性流体の乱流境界層流れにおける抵抗低減に関する研究」により文部科学大臣表彰若手科学者賞を受賞した玉野真司准教授の2名で、鵜飼学長からそれぞれ賞状が授与された＝写真＝。